



病虫害発生予察注意報 第 1 号

斑点米の原因となるカメムシ類が広範囲で発生しています

カメムシ類の発生を確認した水田では防除を徹底しましょう！

[発令の内容]

作物名 : 水稻

病虫害名 : 斑点米カメムシ類

発生量 : 多い

発生地域 : 県下全域

[発令の根拠]

- ① 7 月下旬現在, 水田における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数は平年よりやや多く, 発生地点率は平年より高い (表 1)。すくい取られた主な虫種は, クモヘリカメムシ, アカスジカスミカメ, アカヒゲホソミドリカスミカメ, イネカメムシである。
- ② 7 月下旬現在, 水田におけるクモヘリカメムシ (本県で最も大きな被害を及ぼす斑点米カメムシ) のすくい取り虫数は平年より多く, 発生地点率は平年より高い (表 2)。
- ③ 気象予報 (7 月 26 日発表) によると, 向こう 1 か月の気温は平年並か高く, 降水量は平年並か少ないと予想され, 発生を助長する条件である。

表 1 水田における斑点米カメムシ類の生息状況 (平成 25 年 7 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			すくい取り虫数 (頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (8)	25	13	2	0.13	0.12	5
県央 (15)	33	12	1	0.73	0.20	1
鹿行 (6)	33	17	2-5	0.33	0.86	4
県南 (19)	26	10	1	0.24	0.19	4
県西 (9)	33	8	1	0.17	0.19	4
全県 (57)	30	11	1	0.35	0.25	3

1) 平年:平成15~24年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(2-5)は2位から5位まで同じ数値であることを表す)。

表 2 水田におけるクモヘリカメムシの生息状況 (平成 25 年 7 月下旬調査)

地域 (調査地点数)	発生地点率 (%)			すくい取り虫数 (頭/10回振り)		
	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾	本年	平年 ¹⁾	順位 ²⁾
県北 (8)	25	9	1	0.13	0.08	3
県央 (15)	27	8	1	0.63	0.13	1
鹿行 (6)	17	7	2-4	0.08	0.36	3-4
県南 (19)	0	1	3-11	0	0.04	3-11
県西 (9)	11	1	1	0.06	0.08	2
全県 (57)	14	5	1	0.20	0.11	2

1) 平年:平成15~24年までの10年間の平均値を示す。

2) 順位:過去11年間における本年値の順位を示す(2-4)は2位から4位まで同じ数値であることを表す)。

[防除対策]

- ① 水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生息場所となるので除草に努める。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂期前2週間～出穂期後2週間の除草は行わない。
- ② 斑点米カメムシ類の成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ③ 斑点米カメムシ類の幼虫を対象とした防除適期は、出穂期の10～15日後である。斑点米の発生を防止するためには、特にこの幼虫防除が重要である。
- ④ 収穫の遅い水田では、新成虫の飛来により8月中旬以降にカメムシ類の密度が高まることがあるので、十分注意する。
- ⑤ 防除薬剤は表3を参考にする。薬剤防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

表3 稲のカメムシ類に登録のある主な薬剤（平成25年7月24日現在）

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前日数- 剤の使用回数	有効成分- 有効成分の総使用回数
アルバリン顆粒水溶剤○ スタークル顆粒水溶剤○	2,000	7-3	ジノテフラン-4 ¹⁾
キラップフロアブル△	1,000～2,000	14-2	エチプロール-2 ²⁾
スミチオン乳剤*△	1,000	21-2	MEP-3 ³⁾
MR. ジョーカーEW□	2,000	14-2	シラフルオフェン-2

1) 育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内

2) 移植時までの処理は1回以内

3) 種もみへの処理は1回以内、育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内

※市販の薬剤の中には稲に登録のないものがあるので、確認のうえ使用すること。

○同一の有効成分で空中散布、無人ヘリコプター散布、ブームスプレーヤー散布で登録がある剤がある。

△空中散布、無人ヘリコプター散布、ブームスプレーヤー散布でも登録がある。

□無人ヘリコプター散布、ブームスプレーヤー散布でも登録がある。

注) 農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用する。また、育苗箱施薬、有人ヘリ防除または無人ヘリ、ブームスプレーヤーによる防除を行っている場合は、本剤の使用回数ならびに有効成分の総使用回数等に十分注意する。



写真1 クモヘリカメムシ成虫



写真2 アカスジカスミカメ成虫



写真3 斑点米